



## アーティスト・ワークショップ

# 山の日ワークショップ 「行った山／行きたい山／空想の山」

展覧会：所蔵作品展 旅—ちょっとそこまで、遠くまで 2018.7.14-9.9

開催中の所蔵作品展にゲストとしてご出品いただいた、現代美術家の山下麻衣+小林直人のお二人を講師として招いたプログラム。山の日になみ、またお二人の出品作品にも関連した「山」をテーマに、想像を巡らせながら手を動かしていく時間となりました。

## 概要 OUTLINE

**日程** 8月11日(土・祝)

**時間** 13:30~16:00

**会場** 9階講座室

**対象** 小学生以上

**参加者数** 20人

**講師** 山下麻衣+小林直人

**スタッフ** 美術館3人、ボランティア

A5人、WSサポーター1人

**参加費** 1000円

**参加方法** 事前申込制

## ワークショップの流れ FLOW

- ① 山についてのレクチャーを受け、これから作る山のイメージを膨らませる。
- ② 各自で用意してきたイラストや写真を参考に、油粘土で自分の山を作る。道具も使い細かいところまで仕上げる。
- ③ 大きな板の上に1人ずつ山を乗せていき、全員でお互いの山と山をつなげる。
- ④ 完成した山脈は、7階ロビーに展示。

## 材料と道具 MATERIAL & TOOL

油粘土 2種類、新聞紙、MDF板、展示用の合板、白いペンキ、石ブロック、切り針金、粘土ヘラ



山の一生や種類についてのレクチャー。展示中の作品も参考として紹介された。



油粘土はずっしり重く固いので、まずは体重をかけてよくこねこね。



自分で描いてきた山の絵を見ながら、平面のイメージを少しずつ立体にしていく。

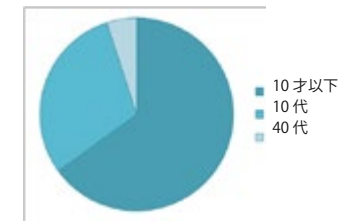


粘土ヘラも使って、細かい部分まで作り込む。

## 参加者の声 VOICES

- ・思ったより大きくて立派な山を作ることができた。みんなの山をつなげて、さらに大きくなって面白かった。(9才/男)
- ・最後みんなの山の作品を並べてみて、色々な作り方があったということを知ることができました。(9才/女)
- ・自分の作品が飾られて、自分のオリジナルの山が作れたからとても楽しかった。(8才/女)
- ・山の影とかを工夫できたのがとても良かった。(8才/男)
- ・子ども達だけだったのにはびっくりしましたが、楽しく作れました。(40才/女)
- ・先生お二人の作品を見て帰りたいと本人が言っていたので、展覧会を鑑賞して帰ります。(参加者の父)

## 参加者の割合(年代) AGE



夏休み中の開催ということもあり、小学校低学年から中学年の子どもの参加がほとんどをしめました。粘土という素材も、子どもの興味を引いた理由の1つかもしれません。

## 講師プロフィール ARTIST'S PROFILE

山下麻衣 +  
小林直人  
(現代美術家)



山下麻衣+小林直人は、「人と自然との関わり」に焦点を当て、一見無謀にも思われる試みを時に偶然も引き寄せながら実現し、そのプロセスを見せるビデオインスタレーションで知られている。山下(1976年千葉県生まれ)と小林(1974年千葉県生まれ)は高校時代に出会い、2001年より正式にユニット活動を開始。東京芸術大学を修了後、キュンストラハウス・ベタニエン(ベルリン、2010)、ISCP(ニューヨーク、2011)等の各国のレジデンスプログラムに参加し、現在は千葉県在住。

主な個展は、小山市立車屋美術館(栃木、2015)、クンストハレ・ゲッティンゲン(ドイツ、2011)等で開催。また、ポンビドゥーセンター・マラガ(スペイン、2018)、水戸芸術館(茨城、2015)、横浜トリエンナーレ2011、あいちトリエンナーレ2010などのグループ展で国際的に作品が紹介されている。